

科目名	音楽教育演習Ⅱ	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	柴田 篤志	単位	1	年次	2

＝授業科目の目標＝

中学校音楽科の鑑賞教材を教材として音楽授業が展開できるだけの知識と技能を身につけます。具体的には教育芸術社・教育出版社に共通して取り上げられる教材すべてと、両出版社独自の曲を選択して数曲、日本伝統音楽・地域の伝統芸能や民謡、世界の諸民族の音楽と楽器を数曲、“教材として授業展開する”ための知識や方法論、図書館所蔵の音響・映像資料の紹介などを通して、鑑賞教材に関する基本的なノウハウの取得を目指します。

＝履修の条件と学習の方法＝

音楽科教育法Ⅰの単位を取得していること。その上で音楽教育法Ⅱの授業を履修している、もしくは単位取得していること。履修人数によって異なりますが、全員が最低三回は課題発表できるように担当を割り付けます。一つの課題には複数人数でチームとして取り組むこととなります。チームの構成人数はこれも履修人数によって異なりますが三人から七人くらいを予定しています。課題発表には資料を作成してもらいます。資料作成のスキルも評価の対象となります。なお、演習Ⅰとは異なり、器楽の教科書も必携となります。

＝授業内容＝

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
課題の割り振り、担当班の作成
- 2回 ヴィヴァルディ、四季より、「春」
- 3回 シューベルト「魔王」
- 4回 スメタナ、我が祖国より「ブルタバ」
- 5回 ベートーヴェン、「交響曲第五番」
- 6回 ヴェルディ「アイーダ」
- 7回 バッハ、小フーガ ト短調
- 8回 ラヴェル「ボレロ」
- 9回 ドヴォルザーク、交響曲第九番「新世界より」
- 10回 リムスキー＝コルサコフ、交響詩「シェエラザード」
- 11回 箏曲「六段の調べ」、尺八曲「巢鶴鈴慕」「鹿の遠音」
- 12回 歌舞伎「義経千本桜」
- 13回 世界の民族音楽と楽器 1
- 14回 世界の民族音楽と楽器 2
- 15回 世界の民族音楽と楽器 3

＝成績評価の方法と評価の基準＝

演習ですので、授業の中での課題をどのようにこなしたかが成績評価になります。自分の担当回がそのままテストだという意識で参加して下さい。最低テストを三回受けることとなります。発表はチーム(班)単位になりますので、自分の担当が明確になるように心がけて下さい。誰がどんな部分を担当したかが判然としない場合、班の評価がそのまま個人の評価となります。なお、配布物としてのプリントの完成度も評価対象となります。

=テキスト（必携）=

《No. 1》

書籍名：中学生の音楽 1

出版社：教育芸術社

《No. 2》

書籍名：中学生の音楽 2・3 上

出版社：教育芸術社

《No. 3》

書籍名：中学生の音楽 2・3 下

出版社：教育芸術社

《No. 4》

書籍名：中学生の器楽

出版社：教育芸術社

《No. 5》

書籍名：中学音楽 1 音楽のおくりもの

出版社：教育出版社

《No. 6》

書籍名：中学音楽 2・3 上 音楽のおくりもの

出版社：教育出版社

《No. 7》

書籍名：中学音楽 2・3 下 音楽のおくりもの

出版社：教育出版社

《No. 8》

書籍名：中学器楽 音楽のおくりもの

出版社：教育出版社